

■パネルディスカッション

【室崎氏】

ハード面の整備を進めていく上で特に取り組んでもらいたい点などありますか。

【塩安氏】

オールジェンダートイレと男女別のトイレ以外にトイレを設置することを必ず行ってほしいと思います。もし可能であれば、車いすユーザーや障害者の方が使う多機能トイレとは別に、普通サイズの男女別ではないトイレがあると非常に助かると思います。

多機能トイレでないと使えない人を邪魔するという可能性を考えて、気兼ねなく使うためには男女になってない普通のトイレが別にあることがさまざまな利用者にとって助かります。

また、トイレ自体の配置も考慮して頂きたいです。カナダ在住時に利用した公共施設では、会議室の隣に広めのトイレがあり、次の会議室の裏に行くと再びトイレがありました。

個別のトイレが分散して設置されているため、並ぶとか集団でトイレに行くことがなくなり、結構使いやすかったです。整備には水道管の配置などが大変ですが、誰でもアクセスしやすい、分かりやすい場所にあることが興味深かったです。トイレの概念を違う角度で見るのも良いと思います。例えば、トイレを男女で分けない傾向の強い北欧などでは、トイレは男女で分ける必要がない。みんな排泄する。という概念です。誰でもすぐにトイレにアクセス出来るように公園でも一番真ん中にトイレが設置されていたり、駅でも一番人が通るところにあったりします。

【室崎氏】

既存トイレの改修の際はどのような設置の仕方が利用しやすいでしょうか。

【塩安氏】

その場合は、表示の問題を考慮頂きたいです。レインボーで書かれたピクトグラムや「トランスジェンダー向けトイレ」「LGBTQ 向けトイレ」といった表札があると、多くの当事者はそこを使うことでカミングアウトのようになるので、非常に利用がためられます。アクセシブルに分かりやすいトイレであることが分かれば良いです。

【室崎氏】

特定多数と不特定多数で利用するトイレの場合での使いづらさや気兼ねについては何か違いがありますか。

【塩安氏】

同じ職場のまま自分の性別を移行していくことを職場トランスといいます。例えば、女性として働き始めた後、男性として生きたいため、在職のままだんだん性別を移行して最終的に男性として生きていくことのような形です。ほとんどの職場の人は以前の性別を知っているのでトイレを使う時も「あの人と同じトイレを使うのか？」ということになる可能性があります。職場がその人をどれだけ理解しているかによってトイレの使いやすさが変わってくると思います。やり方はさまざまですがうまく行くケースばかりではなくカミングアウトした際に「同じトイレに入りたくない」という同僚も現れる場合もあって当事者が傷つくところです。一つずつ解決していくために、どこだったら使えるのかを検討したり、ソフト面での理解の促進を図ることは出来ると思います。

最近では小学生でも性別違和がある場合は、希望の性別で学校生活を送る子もいます。

学校では一部先生のみ知っていて、他の先生は知らないという場合もあって、学校によっては望みの性別のトイレは使わないでほしいという所もあり、誰でもトイレを使用することになっていたりもします。そのため、使用時に周りの友達と異なることで、元々の性別がアウトィングされてしまうということもあり得ます。こういった場合は誰でもトイレを強要するのではなく、その子が使いたいトイレ、性自認に合ったトイレを使わせてあげることがスムーズな学校生活になるかと思います。トランスジェンダーはみんなのために誰でもトイレだけ使いなさいというのは間違いで、選択肢であって強要されるものではない。

パブリックのトイレでは自分の思ったトイレを使えるし、気が楽という面もあると思いますが、公共の目もあります。トイレに性別が合っていない、違うかもしれない人が入っているのを見かけて凄く嫌な気持ちになる人が通報するリスクもあります。クローズドな場では守られながら、自分の使いたいトイレが使えることにも繋がりますのでメリット、デメリットがあると思います。

【室崎氏】

ハード面に関してはどうでしょうか。

【加藤氏】

本学の例に基づいて、まずどこに作るとしても、犯罪のことが一番大きな懸念として挙がると思います。

ハード面として重要なのは、塩安さんのご発言通り、目に付く所にあえて作ることも一つかと思えます。本学も一番目立つところに作りました。また教職員も使って、人の目が絶えずあるという環境にしています。全てをオールジェンダートイレにするよりも男女別のトイレがいい方のためにそういうトイレも残したい。選べることの良さはあるのではないかと思います。

また、設計や建築の際、フレキシビリティを残しておく方が良いと思います。

本学のオールジェンダートイレは、時と場合によって男女別に区切れるようにドア型の壁があります。外部の団体等に会場を貸す際に要望があれば男女別に変えることも出来ます。

つまり、作ってみてからあれこれ出来る設計で建築をしていくのがよいと思います。

【佐藤氏】

ハード面の整備に関しては国土交通省からも機能分散する旨がガイドラインに出ています。交通事業主様を中心に高機能分散しなくてはならないことは考え方として浸透しているように思います。機能分散の例として、男女共用の車いすトイレがあります。

乳幼児用の設備は男性女性トイレごとに分散した例なども出てきます。乳幼児連れも、父と娘、母と息子の組み合わせもあります。赤ちゃんでは子供の性別は全然気にならないですが、4歳からお子さんによっては小学校に入っても、排泄自身は出来ても流す場所だけ教えたいとか小学校1年生ぐらいまでは見守りたい親御さんがいます。男女トイレに分散するだけでは4歳から7歳ぐらいのほんの一時期ですが、そのあたりの人の使いやすさが損なわれるのではないかと危惧しています。

機能分散・多機能トイレに何でも詰め込まれている世界ではないことは理解していますが、すぐ男女トイレに分散するだけの選択肢だけではなくて、とにかく多機能トイレからの分散が目的だと思うので、男女共用エリアを拡大して、分散する考え方も少し視野に入れていただけたらと思います。男女共用などにすれば、親の性別とか関係なく使えて、子供と親だけでなく高齢のお母様を介護する息子さん等、いろいろな人の使いやすさに繋がるとも思います。男女共用トイレに機能分散する考え方も一つとして持っていていただけるとハードの整備もしやすいです。

機能分散はおそらく考えていただけだと思いますが、男女別トイレに機能分散するだけではないというのを知っていただきたいと思います。

ハードの整備に関して、不特定多数の駅などよりも、オフィスや学校の方が見知ってる人と使うために気を遣うという声があり、より入りやすい配慮があった方が良いと思います。オフィスであれば会議室のフロアにあるとか、共用フロア等にあるとか、学校では保健室の脇に2つあって保健室に相談をしたついでに行くといったレイアウトの仕方もあると思います。塩安さんの発言通り、男女共用トイレがあるからそれで済ませなさいというのは少し乱暴だと思います。本人の希望を聞いた上での男女共用トイレの使いやすさを追求していくことが必要かと思います。

【室崎氏】

ハード面の環境を整備した上でソフト面について出来る配慮、工夫を教えてくださいませんか。

【塩安氏】

ハード面も大事ですが、ソフト面がストレスになりがちかと思います。

例えば、カナダに居た際、トイレの中で「私たちはそれぞれの性自認を尊重しています」、「このトイレは安全に使えます」といったポスターを見かけました。

「それぞれの性別とトイレの表札がマッチしてないような人を見かけたとしても、別にハラスメントをしてない限り、スルーしてください。その人があなたよりもどこにいるかは分かっています」という内容を啓発するポスター、トランスジェンダーやノンバイナリーの人が、「私たちはどっちのトイレにも入りづらけれども排泄する必要がある」、「どんな見た目であっても排泄させてください」というような内容を書いたポスターが貼ってあったり、それを促すような「あなた方の性別・性自認に基づいてトイレを使えますよ」ということがトイレに入る前に貼ってあったりと、ソフト面へ啓発するようなことを多く見ました。

新設Cチーム企画では、それに倣った日本版にしたようなものをPDFでダウンロードして使えるように作っていますので、一度見ていただければ嬉しいと思います。

今回、交通関係の方々が多く視聴頂いているということで、公共トイレでもしいわゆる女装しているのではないかという人が女子トイレに入っていくって、女子トイレを使って出てきた場合、別にその人が排泄目的で行っているのであれば、特に呼び止めたり通報したりしなくてもいいと思います。何かしているのではないか、中でトラブルが起きているとかそういうことがあった場合は通報する必要がありますが、そうでない時は、単に排泄をしに来ているだけです。それで通報されたら外出しにくくなってしまいます。もちろん普通に私たちが公共トイレを使う時、同じように使っている人たちに対してもそのように見てもらいたいと思います。だから自分が見たことないような、見慣れない人が現れたからといって即座に危険だと思わずに、単に排泄に来てるという可能性がほとんどですからトイレをさせてあげてください。それが具体的な対応になるのではないかと思います。

私達は普通にトイレがしたいだけです。もちろん盗撮とかをしに来る人はいるとは思いますが、例えば巡回をするとか、使っていない時間帯に全部の設備を点検して確認するとかあるいは盗撮行為は法律違反ですので、罰則がある旨をしっかりと掲示して牽制することで犯罪は防いでいく必要があると思います。

私たちが公共をどういう風に安全な場にしていくかということをそれぞれがしっかりと責任を持って考えないとトイレについても本当に安全にならないと思います。

【加藤氏】

やはり公共交通の責任をお持ちのみなさんは、犯罪の発生や乗客の皆様の安全を第一に考えて、恐らく二の足を踏んでいらっしゃるかもしれませんが、男女別トイレであったとしても警察官とか大学教授が盗撮カメラを女子トイレに置いて逮捕されています。要するにそういった犯罪が起こらないようにすることが大事なと思います。

本学のオールジェンダートイレは、凹凸ができる限りありません。一つ一つの個室の中に凹凸がないため、隠しカメラが隠せないデザインです。よく設計会社・建築会社と相談してハード面で解決出来ることがたくさんあるということをもっと知っていただくと違ってくると思います。

心のバリアフリーという非常によく聞く言葉にたどり着くのもかもしれませんが、公共交通機関の責任者の皆様自身が偏見のない目で乗客の皆様を見ていただきたい。乗客の方などから、何でこんなトイレを作ったのかと言われる際に、慌てないでしっかりと説明が出来ることが大事かと思えます。つまり自分たちが納得して作っているということをもっと乗客の皆様にお知らせすることが全ての利用者の方への安心感に繋がると思えます。

【佐藤氏】

交通事業者の方へという訳ではありませんが、やはり気兼ねなく利用出来るということが大事になってくると思っています。そのためにはハードの整備はもちろん、私たち一人一人がお互いのことをよく知っていくことだと思います。

トイレでの排泄はよく考えたとしてもプライベートな空間で行われるので、自分以外の排泄のことは正直みんな知らない。当事者同士もそうであって、オストメイトの方は汚物流しを使うためにバリアフリートイレに入りますが、出てきた時に健常者に見えるため、よく睨まれて肩身が狭いという話もあります。何か多機能トイレに入らなくてはならない理由があるのかもしれないと思えば、スルーできるはずで、いろいろな理由でバリアフリートイレを使う人がいるという理解を私たち一人一人が知っておく必要があると思います。私たちメーカーとしても何かやれることはあるのかもしれないと考えていきたいと思っています。

【室崎氏】

最後、視聴申し込みの皆様からいただいた質問がありますので、いくつか紹介し、議論で話せていなかったところがありましたらお願いします。

「トイレのピクトグラムにはどのようなサインだと良いか」というの質問について、ご意見・コメントをお願いします。

【佐藤氏】

男女共用トイレ・オールジェンダートイレについては、もうすでに調査がされています。

交通エコロジー・モビリティ財団さんのホームページにもガイドラインも出ているので、参考にされると良いと思います。塩安さんの発言の通り、レインボーマークに関しては入れてくれることで嬉しい人もいる一方、マークがあることで入りづらい方もいます。男性、女性、誰でも使えることがピクトグラムで表示されていればレインボーマークを入れなくてはならないとは思っていません。

名称については、現場ではピクトグラムがあれば男女に関わらず入れることが分かるので名称を付けなくてよいと思います。ただホームページ上で紹介する際の呼称は悩ましいかもしれません。たまにコンビニで見かける男性と女性のマーク両方記載されているトイレなどは、多分私達利用者は何も考えずに利用していると思います。現場ではそういった運用がされていくと思います。

【塩安氏】

カナダの大学のオールジェンダートイレでは、「このアクセシブルなトイレを必要な人がいますのでちょっとご配慮ください」という一言が付いています。単なる誰でもトイレであれば中でゲームや読書など居座る人が出てくる可能性があります。「ここを必要な人がいますのでそういう方にご配慮ください」のような、マナーに基づいた行動をしてもらえる表記があるといいと思います。

【室崎氏】

ハード面の「既存トイレでオールジェンダートイレを新設する場合、注意点などはありますか」という質問についてはどうでしょうか。

【佐藤氏】

オールジェンダートイレの設置が、バリアフリースペースとは別か一緒かは、現場の面積や利用者数にもよるため、現場で検討されるべきですが、余裕があれば、トイレが個別に分かれていて複数ある方が、お互いに気兼ねなく使えると思います。

男女共用トイレは、視覚障害の方にも使い勝手が良いと思います。視覚障害の方にアンケートを採った際、異性介助の場合に男女共用トイレが増えると同伴の人に中まで入ってもらわなくても情報が事前にもらえてよい、空き状況が分かりやすい、男女共用トイレなら扉が開けば空いていると認識出来る面がよいという声もあり、視覚障害の方の使いやすさにも繋がるのではないかと思います。

【室崎氏】

今回のオールジェンダートイレ、男女共用トイレをきっかけに排泄の権利、人の尊厳、そもそも社会が多様な人をどう認めていくのかということから変わっていかないといけないという話も出ました。トイレの整備では、自分が使いたいトイレを「選べる」こと、「気がねなく使える」こと、あと特に質問では「防犯」について気になるという意見も挙がっていましたが、むしろトイレは人目につく場所に設置しみんなの目に触れることで防犯も出来るのではないかというお話をいただきました。私自身も「なるほど」と思いました。皆様にも気づきやヒントを得て頂けたかと思っています。

今勉強会をきっかけに、男女共用トイレ、オールジェンダートイレのあり方について考えていただけると幸いです。ありがとうございました。